

しなやかに生きる ～和ごころコミュニケーションの極意～

小原靖子（高57回）

「一人でインドに行くなんて、何を馬鹿なこと言つてゐるの！」

大学1年、人生で初めて親の反対を押し切った瞬間だった。目には溢れんばかりの涙を浮かべたまま、私は飛行機へと乗り込んだ。受話器から聞こえた母の泣き声が頭の中でエンドレスでリピート再生され、胸の奥がギュッと締め付けられる度に、自身の選んだ道に不安を感じた。

怖くて、苦しくて、罪悪感と好奇心の狭間で何度も航空券の予約をしては、それをキャンセルすることを繰り返した数か月だった。でも、心のどこかにあった違和感に、どうしても嘘がつけなくなつたんだ。

存在しない者として扱われた小・中学校時代

小学校では酷いイジメを経験した。時には机や椅子は

分の存在価値のすべてだと思い込んだ。だから、必死で結果を出すための努力を重ねてきた。人より劣つていて存在だというレッテルを自分に貼つてしまつて生きてきた私は、親や社会が評価するものを正しいと信じて疑わなかつた。

マザーテレサのいたインドに行けば何かが変わるものではない。そう思いながらも、社会の評価や親の期待に応え続けた先にあつたのは、その期待に応えきれないものかしさと、自分が何者なのかという問い。そして、どこまでいつても拭いきれない虚しさだつた。

人生を変えたインドにて。
子ども達に囲まれて



親の反対を押し切ることは、今までの

自分の生き方を否定することでもあつた。が、決意した私は、友人や教授に根回して大学の単位を取るために動き始めた。これが、私が本当の自分の人生を歩み始めた第一歩だつた。

親なら誰しも、子どもの幸せを願うだろう。心配して当然だ。親の思う子の幸せと自分の進みたい道が一致していたとしたらどれだけ楽だろうか。でもそうじゃなければ、自分の人生を生きるために、大切な人の



●おばら・やすこ
飯田市出身。慶應義塾大学法学部卒業後、ベンチャーコンサル会社に就職。経営者・営業マン・女性のコンサル実績5200件以上。現在、日本の心を土台に、人と組織のコンサルティング事業を行う。

「期待を裏切る勇気」が必要になる時もある。

コンプレックスは最大の魅力に変えられる！

「お前って本当に呼吸をするようにセールスするよな」周りからよくこんな言葉を言われる。実際、電車や居酒屋、街中で、声をかけては30分でご契約を預かるほどの営業力が私にはあつた。でも、元々人が恐かった私にとって、営業は最も苦痛でやりたくない仕事。人が恐かつたからこそ営業を極めることを決めたのだ。

大学時代、バックパックしたインドで出逢った男性とのご縁でベンチャーレースのコンサル会社へ新卒で入社。手帳は架空のアポイントメントで埋められ、クレームのメールは消去し、電話は着信拒否。1年目の契約はほぼクリングオフに消えた。

「全然売れない。もう辞めようか。でもこのまま終わらたくない」

プライドを捨て、涙を流しながら、とある業界で成果を出していった男性に精一杯の想いを伝えた。その男性は、私に営業のロールプレイの特訓を受けさせ、沢山の顧客を紹介してくださつたのだ。

朝から晩まで1日17時間働いた。時には水を掛けられ、1分の遅刻に怒鳴られ、1か月謝罪に通い続けたことも

ある。しかし、私の熱意と真摯な姿勢は着実に信頼に結びつき、ファンクラブまでできた。紹介は絶えることなく、800名を超える顧客数となつた。

「社長、今までずっと苦しかったですよね。まだまだ未熟者の私ですが、社長の幸せを願う気持ちは誰にも負けません」とある商談で、胸ぐらを掴まれ怒鳴られた私は、涙ながらにそう伝えた。すると、「そんな事を言われたのは初めてです。その言葉に救われました」と、泣きながら契約を交わしてくれた方もいる。

私の営業力の元は、自分の中のコンプレックスから来ている。私が孤独だったから目の前の人を孤独にさせないと決めている。その方の気持ちに寄り添いたいというその想いが、今でも人と関わる全ての土台になつていて。

幸せはなるものではない。

この瞬間が幸せで在ればいい

突然のことだつた。朝起きたら身体に力が入らない。全身から力が抜けて、起き上がる事もできなくなつた。生理も1年半止まつたままだつた。今まで、女性であることを何かができない言い訳にすることが嫌だつた私は、必死で結果をつくってきたが、内面では葛藤をしていたのだ。

チャレンジしても、もう何も失うものなんてない。私が独立を決意した瞬間だつた。何もなくても愛してくれる人がいると思うだけで、不思議と心が感謝と幸せでいっぱいになつた。自分はもう欲しいものは手にしていたのだ。

これから時代、いかに正しさを捨てられるか

バックパッカーで28か国を経験した私が海外で一番学んだことは、日本での正しさは海外では全く通用しないということ。今の日本は個性ではなく社会の「正解」の枠組みから出ないことが社会の勝ち組だと言われ、その枠の外の人間は「負け」と評価され、自分のダメなどころにフォーカスされる。

現代は、SNSで中学生が稼げる時代。人間関係や家族の形も多様化している。誰も経験したことのない想像を超える時代の中、今までの常識は全く通用しなくなっている。正しさを捨てられない人は間違ひなく取り残されるのだ。正しさは、相手を「間違つていて」と否定するスタンスから争いしか生まない。互いを否定せず尊重し合う。それが日本の、大和の心ではないか。

自分の本心に従つて生きることが、自分と調和して生きることを心から祈つていて。



「新♥大和なでしこ塾」の受講生達と(左から2人目が筆者)

きるということ。そもそも感情に振り回され自分の本心が見えていない。伝えたい本質を伝えられない人が多いからコミュニケーションが不和になるのだ。

私は今、女性向けに「新♥大和なでしこ塾」という私塾を立ち上げてている。日本の和の心を土台に、頑張ることをやめ、自然体で生きることで人生の幸福度を高める心身を創り上げる体感型プログラムだ。開講以来、4年で、口コミだけで受講生は150名を超えた。自分を確立させ、他者と調和して生きる、自分の本心に従い、肩の力を抜いて人生のパフォーマンスを最大化させるための組織づくりやコミュニケーションのコンサルティングを行つてている。

社会の固定概念から解放され、周りや感情に振り回されず自分の幸せに意思をもつて生きる強く優しい日本人女性が私のコミュニティから日々増え続けている。誰も自分の人生に責任をとつてはくれない。だからこそ、親や社会の「幸せ」ではなく、幸せそうに見せることでもなく、自分自身が納得いく「自分の幸せ」を生きられる人が増えることを心から祈つていて。



タイでは一文無しになるも、生きる力をもらった

3日、1週間、3ヶ月……。ベッドに寝た切りになつて天井だけを長い間見つめていた。それまで必死に積み上げてきた努力やキャリアがガタガタと音を立てて全て崩れ去つていく恐怖の中で、迷惑をかけていることへの申し訳なさと焦りとプレッシャーに押し潰されそうで涙が止まらない。

「もう頑張らなくていい。こんなになるまで頑張つて……あなたが幸せに笑つていてくれるだけでいいの」駅のホームで泣き崩れた母。心身共にボロボロの私を無条件で愛してくれる家族の愛に支えられて、私は大好きだつた会社を辞めた。どんな自分をも変わらず愛してくれる家族の無償の愛が、必死で執着してきたものを、手放す勇気を与えてくれたのだ。

会社を辞めた私が向かつた先はタイだつた。ところが、たつた1週間で、お金もパスポートも荷物を全て盗られてしまつたのだ。私は、パンガン島で身一つになり、ただ呆然と夕陽を眺めていた。これまで人生で最も美しい夕陽に涙を流しながらこう思つた。この先何か